

# AMCoR

Asahikawa Medical College Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

旭川医科大学研究フォーラム (2000) 創刊号:69.

最近の精神医療の動向について—過去13年の文献の探索から—

山内 学、上野栄一

投稿論文 (原著・査読済)

## 最近の精神医療の動向について

— 過去13年間の文献の探索から —

山内 学\* 上野 栄一\*

### 【要 旨】

本研究は、医学中央雑誌(1987年~2000年CD-ROM版)の精神医療というキーワードを基に日本の最近の精神医療の動向について内容分析を用いて調べた。文献のタイトルの分析は、タイトルの日本語文書を語彙レベルに分解して、品詞を取り出した。

その結果、文献のタイトルから「法」、「精神衛生法」、「精神保健法」の語句が抽出された。これは1987年に精神衛生法から精神保健法に改正されたことに関連しているものと考えられる。また「リエゾン精神医療」、「地域医療」、「報道機関」、「阪神淡路大震災」といった社会情勢の反映を示す語句が見られた。この結果は、精神医療が社会福祉と連携をとりながら綿密な再検討がされていることを示した。これらの結果から、内容分析による語彙レベルによって日本語の文章を分別、分析することは精神医療の動向を評価する際に大変有効であることが示唆された。

**キーワード** 精神医療、内容分析、精神保健法、社会情勢

### I はじめに

精神病が医療の対象外におかれていた時代は長く、古代人は精神病患者を神の使者、あるいは悪魔にとりつかれた人とみなした。ギリシア時代はヒポクラテスが体液説を唱えた。中世では魔女裁判が行われるなど暗黒時代といわれた。精神医学の出現は19世紀以降といわれる。1793年にピネルが「精神病患者の鎖からの解放」を行い、1923年にジーモンが作業療法を創設、1929年には脳波が発見された。また、1952年以降はクロルプロマジンやハロペリドールなどの薬剤が開発されるなど、第2次大戦後の薬物療法が精神医療に果たした役割は大きいといえる<sup>1)2)3)</sup>。わが国における精神医学も近代明治以降、欧米の精神医学の導入により発展を遂げてきた。精神疾患の診断治療に関する研究は従来の遺伝生物学的研究から神経化学・神経内分泌学・神経生理学・分子遺伝学などの諸領域から活発に

行われており、現代の医学の進歩とともに枚挙に暇がない。また、精神医療は精神医学の進歩に由来するものが大きい。精神障害者を取り巻く行政施策、すなわち、わが国では精神衛生法から精神保健法・精神保健福祉法への変遷を代表とする社会動向や、心理学的・社会的・経済学的視点が加味され、世相を反映し互いに影響していると思われる。

本研究では過去13年間の「精神医療」に関する文献の表題を分析することにより、各年度における精神医療で注目されている内容の特徴を明らかにし、精神医療・精神看護の動向を明らかにすることを目的とした。

### II 方 法

#### 1. 研究対象

医学中央雑誌CD-ROM(1987年~2000年)版を研究対象とした。医学中央雑誌は医学文献情報のデータベースとして権威のある2次資料として利用されてい

\* 旭川医科大学 地域保健看護学講座

る。その特徴は網羅性にあり、収録文献は国内の医学・歯学・薬学およびその関連領域から収録された約2400の資料から採択され、収録数は27万件を超えている。採択分野は生理学・生化学などの基礎分野から臨床医学の各分野、さらには獣医学・看護学・社会医学など広範囲に及んでいる。精神医学・精神医学研究・精神医学研究所業績集・精神医学史研究・精神医療・精神衛生研究・精神衛生資料・精神科MOOK・精神科看護・精神科治療学・精神科診断学・精神看護・精神心理臨床研究・精神障害リハビリテーション・精神神経学雑誌・精神身体医学・精神分析研究、精神保健・精神保健研究・精神薬療基金研究年報・精神療法・こころの科学・こころの看護学・こころの健康など、精神領域に関する文献も多数収録されていることから、本研究に医学中央雑誌を採用した。

## 2. 分析方法

医学中央雑誌CD-ROM (1987年~2000年) 版からキーワード「精神医療」によるコンピュータ検索を行い、検索された1249文献を投稿誌への掲載年毎に分類した。次に、各文献の表題を下記の方法に従って分解した。分析する単位は表題の名詞句とし、内容分析を行った。内容分析は、1920年代アメリカの新聞における国内事件・政治・労働などの内容の研究や、イギリスの詩や散文の文学的特徴の分析に用いられ、その後のマスメディアの発達と共に社会科学・心理学へと研究領域が拡大してきたという歴史的背景を持つ。内容分析とは、「データをもとにそこから(それが組み込まれた)文脈に関して再現可能で(replicable)で妥当な(valid)推論を行うための一つの調査技法である」<sup>4)</sup>「内容分析は表明されたコミュニケーション内容の客観的・体系的・数量的記述のための調査技術である」<sup>5)</sup>と定義されている。その内容に若干の相違があるが、内容分析はコミュニケーションのメッセージのシンボリックな意味を探り、データの文脈において関連付けて行われるものとしてとらえられる。内容分析は一般に、データ作成、データ変換、推論、分析、直接的妥当性検証、他の方法による結果との照合、仮説の検証という手順によって進められる。

本研究で行った名詞句への分解・抽出の方法を以下

①~⑧に示した。

①句読点・接続詞で結ばれた名詞句は分解した。

例：「精神と医療」=「精神」+「医療」

②修飾語はできるだけ排除したが、漢字でひとつながりになっている表現は、1語として数えた。

例：「発展的な精神医療」=「精神医療」

例：「発展的精神医療」=「発展的精神医療」

③英単語(アルファベット)で構成された文章は、1語として数えた。

例：「Case management」

④英単語あるいは英文を日本語の発音に読替えたもの(カタカナ)は、1語として数えた。

例：「アダルトチルドレン」

⑤英文・英単語と名詞句との組合せは、まとめて1語として数えた。

例：「prospective 研究」

⑥英文・英単語を日本語の発音に読替えたもの(カタカナ)と名詞句との組み合わせは、まとめて1語として数えた。

例：「ケースマネジメント技法」

⑦英文・英文を日本語の発音に読替えたものと、その後続く対訳文や説明文によって構成された文章の場合、あるいはその逆の形式の場合は、まとめて1語として数えた。

例：「Evidence-based Psychiatry 実証的証拠に基づく精神医療」

例：「外傷後ストレス障害(PTSD)」

⑧特定の事件や災害などを示す一般的な名称は、そのまま1語として数えた。

例：「阪神・淡路大震災」

また、データの解析にはMicrosoft Excel2000およびStat View5.0(Windows版)を用いた。

## III 結 果

### 1. 文献数・名詞句種類数・名詞句総数の年次推移

各年度における文献数・名詞句種類数・名詞句総数の年次推移を図1に示した。各年度の文献数をみると、1995年より100を超えている。全年度における名詞句は2196種類、分解された名詞句の総数は5703個となった。名詞句種類および名詞句総数については文献数の増減とほぼ一致した推移を見ることができる。

### 2. 各年度の名詞句の出現頻度

全年度における出現頻度0.4%(N=5703)以上の名詞句を表1に示した。その結果、「精神医療」・「精神科医療」・「現状」・「福祉」・「問題点」・「立場」・「役割」・「試み」・「医療」・「精神科病院」・「中心」・「精神

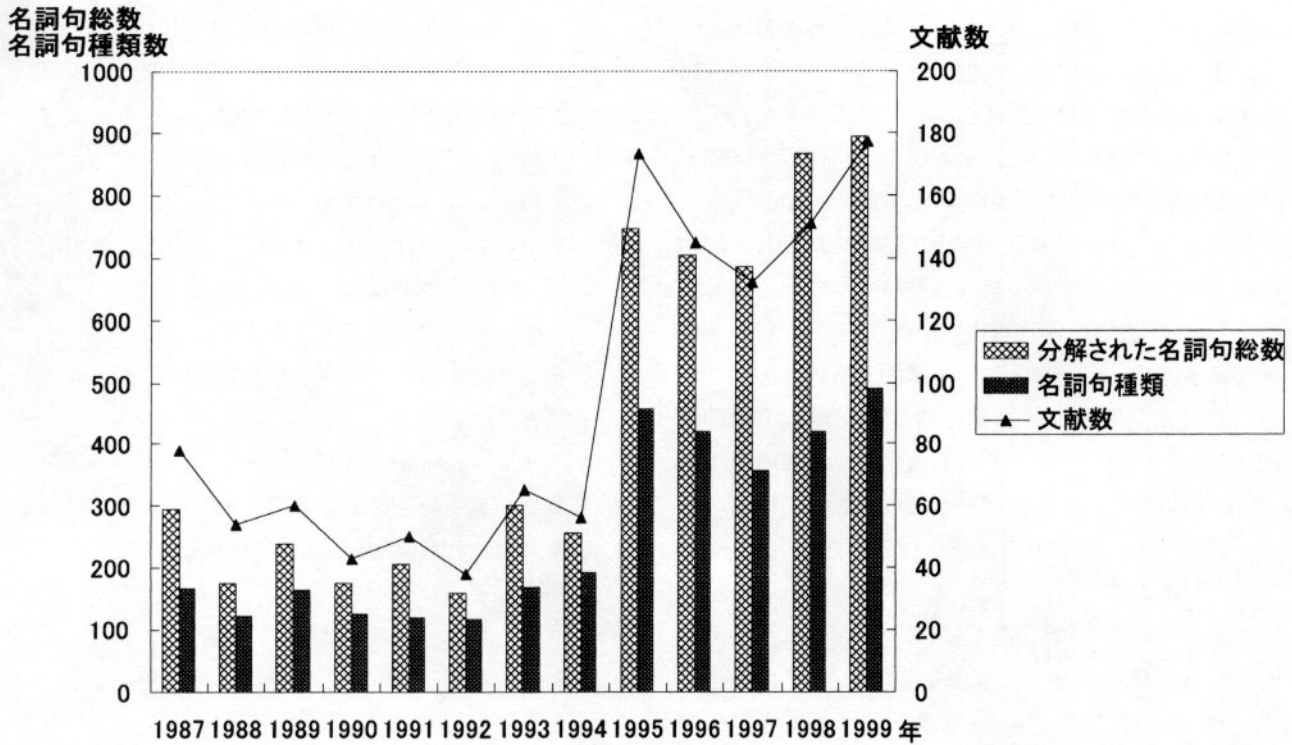


図1 各年度における「精神医療」の文献および名詞句総数、名詞句種類数

病院」・「展開」・「精神障害者」・「課題」・「21世紀」・「最近」・「法」・「インフォームド・コンセント」・「経験」・「精神科」・「日本」・「患者」・「動向」・「アンケート調査」の25種類で、23.39%を占めている。出現頻度が上位にある名詞句には次のような特徴がみられる。

(1) 出現頻度第1位の「精神医療」の出現回数は、各年度19~60回である。1987年は60回であるが、

以降は19~38回である。出現頻度第2位の「精神科医療」の出現回数は、各年度0~35回を推移している。また、1998年からは「精神医療」の出現回数を上回っている。

(2) 「精神科病院」(0.63%)・「精神病院」(0.58%)・「精神科」(0.46%)・「日本」(0.46%)・「現状」(1.63%)・「最近」(0.47%)・「動向」(0.44%)・「問題

表1 全年度出現頻度0.4%以上の名詞句

名詞句	各年度における出現回数(回)													総数(回)	全年度における出現頻度(%) (N=5703)	
	1987年	1988年	1989年	1990年	1991年	1992年	1993年	1994年	1995年	1996年	1997年	1998年	1999年			
精神医療	60	25	29	25	30	20	35	19	27	25	38	21	381	6.68%		
精神科医療		1	1	1			2	8	17	5	18	30	35	118	2.07%	
現状	5	2	10	5	2	4	1	5	2	4	24	16	13	93	1.63%	
福祉		4			11	1	8	2	6	16		2	9	59	1.03%	
問題点	1		8	1	1	2	4		1	2	6	8	16	50	0.88%	
立場	2	2	3	2	8	1	3	4	10	1	2	6	2	46	0.81%	
役割	2	3	2		2	3	3	2	7	4	4	5	8	45	0.79%	
試み	1			1		2	2	1	4	3	6	20	3	43	0.75%	
医療	1		1				2	1	3	5	3	6	19	41	0.72%	
精神科病院	1						1	2		1	9	11	11	36	0.63%	
中心	3		3		2	3	4	1	3	5	4	3	3	34	0.60%	
精神病院	2		2	1	6					2	6	14		33	0.58%	
展開			2				2	2	1	1	1	19	5	33	0.58%	
精神障害者	1	1						1			4	17	3	5	32	0.56%
課題	2		1			1	2		3		2	10	9	30	0.53%	
21世紀				1					1		16	2	3	6	29	0.51%
最近	1										7	17	2	27	0.47%	
法	24			1	1			1						27	0.47%	
インフォームド・コンセント					1	1	6	4	2	7	1	2	2	26	0.46%	
経験	1		1	2	1		1	2	5	5	2	4	2	26	0.46%	
精神科								4	4	2		12	4	26	0.46%	
日本	1	2	2	3			1		3	1		8	5	26	0.46%	
患者	1		1	1			1	1	9	4	2	3	2	25	0.44%	
動向	1		2			1		1	2	2	7	4	5	25	0.44%	
アンケート調査				1	1					2	17	2		23	0.40%	
総計														1334	23.39%	

点」(0.88%)、「課題」(0.53%)・「21世紀」(0.51%)・「展開」(0.58%)といった国内の精神医療の現状分析や今後の示唆を与える名詞句が出現している。  
 (3) 「立場」(0.81%)・「役割」(0.79%)といった精神医療の構造的な位置関係や認識に関する名詞句が出現している。

(4) 精神医療の行われる環境を示す「精神科病院」(0.63%)・「精神病院」(0.46%)という名詞句が出現している。  
 (5) 精神医療の対象に関する「精神障害者」(0.56%)・「患者」(0.44%)という名詞句が出現している。

表2 各年度毎の出現頻度の高い名詞句

1987年 (回)	1988年 (回)	1989年 (回)	1990年 (回)	1991年 (回)	1992年 (回)	1993年 (回)
精神医療 (60)	精神医療 (25)	精神医療 (29)	精神医療 (25)	精神医療 (30)	精神医療 (20)	精神医療 (35)
法 (24)	イタリヤ (4)	現状 (10)	現状 (5)	福祉 (11)	家族 (4)	救急処置 (14)
現状 (5)	福祉 (3)	問題点 (8)	総合病院精神科 (4)	福祉 (11)	現状 (3)	事故 (10)
精神保健法 (4)	精神保健法 (3)	山梨県 (6)	連携精神医療 (2)	救急精神医療 (9)	フランス (3)	老年精神医療 (8)
観点 (3)	役割 (2)	医療法改正 (6)	日本 (3)	立場 (8)	精神保健法 (2)	シヤーマニズム (8)
診断 (3)	老人精神医療 (2)	私 (4)	あり方 (2)	重要性 (6)	中心 (2)	フェイルトワーク (7)
精神医療改革 (3)	イタリヤ精神医療 (2)	総合病院 (4)	経験 (2)	精神病院 (6)	マンパワー (2)	福祉 (7)
精神衛生的配慮 (3)	医療費体系 (2)	将来 (4)	精神医療改革 (2)	回復 (6)	検討 (2)	比較研究 (7)
精神衛生法 (3)	現状 (2)	精神医療改革 (4)	地域医療 (2)	検討 (2)	試み (2)	大学精神科医局 (7)
中心 (3)	新聞 (2)	提言 (4)	入院患者 (2)	場合 (2)	場合 (2)	問題点 (7)
老人精神医療 (3)	精神医療改革 (2)	病院 (4)	病院 (2)	流れ (2)	流れ (2)	流れ (7)
	精神医療向上 (2)	立場 (4)	立場 (2)	国立精神医療センター片寄病院 老人性痴呆専門病棟	国立精神医療センター片寄病院 老人性痴呆専門病棟開設10ヵ月間	
	島根県隠岐島 (2)	精神保健法施行2年 (4)	精神保健法施行2年 (2)			
	日本 (2)					
	保健 (2)					
	立場 (2)					
	老年精神医療 (2)					

1994年 (回)	1995年 (回)	1996年 (回)	1997年 (回)	1998年 (回)	1999年 (回)
精神医療 (19)	精神医療 (27)	精神医療 (25)	精神医療 (38)	精神科医療 (30)	精神科医療 (35)
精神科医療 (8)	精神科医療 (17)	コミュニティ精神医療 (22)	現状 (24)	精神医療 (27)	精神医療 (21)
現状 (5)	阪神・淡路大震災 (11)	21世紀 (16)	精神科医療 (18)	試み (20)	医療 (19)
インフォメーション (4)	福祉 (10)	福祉 (16)	アンケート調査 (17)	展開 (19)	精神科急性期治療病棟 (17)
精神科 (4)	治療施設 (10)	エンパシー・コンパニオン精神医療 (15)	精神障害者 (17)	最近 (17)	問題点 (16)
地域 (4)	立場 (10)	精神障害 (13)	報道機関 (17)		
立場 (4)	患者 (9)		社会復帰 (16)		
必要性 (3)					

(6) 国内の精神医療施策における法的な位置付けと患者の権利に関する「福祉」(1.03%)・「法」(0.47%)・「インフォームド・コンセント」(0.46%)という名詞句が出現している。

### 3. 各年度毎の出現頻度の高い名詞句

表2は各年度毎の出現頻度上位5位までを示した。「精神医療」・「法」・「現状」といった名詞句が全年度の上位にあがる。また、1987年には「精神保健法」や「精神衛生法」、1988年には「老人精神医療」、1990年には「連携精神医療」、1991年には「救急精神医療」、1993年には「救急処置」や「老年精神医療」、1994年には「地域」、1995年には「阪神・淡路大震災」、1997年には「報道機関」や「社会復帰」、1999年には「精神科急性期治療病棟」といった名詞句が現れ、各年度の名詞句の出現傾向が異なる。

### 4. 「法」に関連した名詞句

表3は各年度の「法」の文字を含む名詞句の推移を示している(ただし法律の意味を含まない「療法」・「方法」・「対応法」・「技法」などは除いた)。「法」の文字を含む名詞句は「法」・「精神保健福祉法改正」・「精神保健法」・「精神保健福祉法」・「触法精神障害者」など39種類である。これらは各年度に出現し、全体では123回(2.16%)となっている。

### 5. 「病院」に関連した名詞句

「病院」の文字を含む名詞句は計109種類となった。全体では257回(4.51%)で、全年度にみられるが、特に1997年以降は出現回数40回を超えている。

### 6. 「社会」・「地域」・「コミュニティ」に関連した名詞句

表4は各年度の「社会」または「地域」または「コミュニティ」を含む名詞句の推移を示している。「社会」または「地域」または「コミュニティ」を含む名詞句は、「社会参加」・「社会復帰」・「地域ケア」・「地域医療」・「コミュニティ・ケア」など43種類である。出現総数は110回(1.93%)となり、1994年以降よりやや出現回数が増加している。

### 7. 「リエゾン」・「連携」・「コンサルテーション」に関連した名詞句

「リエゾン」・「連携」・「コンサルテーション」の文字を含む名詞句は「コンサルテーション・リエゾン」・「医療連携」・「地域医療連携」・「地域連携事業」・「病診連携」など20種類で、全体で74回(1.30%)である。特に1996年21回、1997年13回、1999年が11回と多い。

### 8. 「コメディカル」・「コ・メディカル」に関連した名詞句

「コメディカル」あるいは「コ・メディカル」という文字を含む名詞句は「コ・メディカルスタッフ」・「コ・メディカル職員」・「コメディカル」・「コメディカルスタッフ」・「コメディカル関連」などの7種類で、全体で19回(0.33%)である。これらの名詞句は1993年以降に出現しており、1998年が12回と最も多い。これとは別に「PSW」・「PSW援助」・「精神科ソーシャルワーカー」・「精神科病院ワーカー」・「精神保健福祉士」・「精神保健福祉士誕生」という名詞句が全体で14回(0.25%)であり、そのうち1998年は5回、1999年は5回を占める。

### 9. 「リハビリテーション」に関連した名詞句

「リハビリ」の文字を含む名詞句は「リハビリテーション」・「リハビリテーション医療」・「リハビリテーション機能」・「リハビリテーション時代」・「職業リハビリテーション」などの13種類で、1995年より各年に出現し、1999年までの5年間で37回(0.65%)を数える。

### 10. 「看護」に関連した名詞句

「看護」の文字を含む名詞句は「メニガー看護患者分類」・「患者-看護婦(士)関係」・「患者-看護婦関係」・「看護」・「看護・コメディカル委員会」などの21種類、全体で47回(0.82%)である。

キーワード「精神看護」を医学中央雑誌CD-ROM版で検索すると、1987年では3文献であるのに対し、1999年では781文献と急増している。

### 11. 精神医療の対象となる病期に関連した名詞句

「慢性」の文字を含んだ名詞句は全体で4回(0.07%)である。一方、「急性」の文字を含んだ名詞句は1993年より出現しており、全体で54回(0.95%)、1993年1回、1994年0回、1995年2回、1996年14回、1997年13回、1998年3回、1999年20回である。また、「救急」の文字を含んだ名詞句は全体で60回(1.05%)である。

### 12. 介護・老年医療に関連した名詞句

「介護」の文字を含んだ名詞句は「介護保険」・「介護保険制度」・「介護保険制度」・「介護保険法導入」・「痴呆性老人介護」・「要介護老人」の6種類で、全体の9回(0.16%)のうち1998年は5回を占める。「老年」・「老人」の文字を含んだ名詞句は31種類で、全体では72回(1.26%)で、1993年が20回、他の年は1~7回である。

表3 「法」の文字を含む名詞句の各年の推移

名詞句	出現回数													合計	
	1987年	1988年	1989年	1990年	1991年	1992年	1993年	1994年	1995年	1996年	1997年	1998年	1999年		
法	24			1	1			1							27
精神保健福祉法改正										1		11	8		20
精神保健法	4	3	2		1	3	1	1							15
精神保健福祉法										2		5	2		9
触法精神障害者									2	1	3				6
精神衛生法	3		1												4
医療法改正	1			2											3
法改正			1									2			3
触法精神障害者問題											1	1			2
精神保健法見直し				1		1									2
精神保健法施行2年				2											2
精神保健法施行後			1			1									2
法律				1								1			2
医事拘禁法下													1		1
家族法	1														1
介護保険法導入												1			1
外国人触法措置入院患者												1			1
憲法学的考察									1						1
司法精神医療					1										1
司法精神医療サービス												1			1
児童福祉法	1														1
少年院法	1														1
少年法	1														1
触法精神障害												1			1
触法精神障害者対策									1						1
新法施行										1					1
精神保健法下					1										1
精神保健法後			1												1
第2次精神保健法改正									1						1
断種法史上												1			1
法施行1年め			1												1
法的、医療的問題										1					1
法的位置づけ													1		1
法の基盤												1			1
法の条件	1														1
法の責任									1						1
法の側面						1									1
法律家	1														1
労働関係法	1														1
合計	39	3	7	7	4	6	1	2	6	6	4	26	12		123

表4 「社会」、「地域」、「コミュニティ」の文字を含む名詞句の各年の推移

名詞句	出現回数													合計	
	1987年	1988年	1989年	1990年	1991年	1992年	1993年	1994年	1995年	1996年	1997年	1998年	1999年		
社会参加								1	1		1				3
社会復帰	1									1		16			18
社会復帰活動	1														1
社会復帰施設												1			1
社会復帰促進														1	1
社会復帰促進センター								1							1
精神障害者社会復帰施設													1		1
精神障害者社会復帰促進センター								1							1
川崎市社会復帰センター											1				1
コミュニティ											1				1
コミュニティケア			1	1											2
コミュニティー												1			1
コミュニティー								1		1					2
過疎地域				1											1
社会(地域)精神医療														1	1
人口過疎地域													1		1
精神科地域医療圏												1			1
地域		1	1						4	1	1	2	2	1	13
地域ケア	1							1	1		1				4
地域ケア・サービス													5		5
地域づくり													1		1
地域ネットワーク						1				1					2
地域リハビリテーション													1		1
地域医療				2	1							1	1	1	6
地域医療活動					1										1
地域医療計画	1	1													2
地域医療計画策定			1												1
地域医療連携												1			1
地域化													1		1
地域差			1												1
地域資源相互											1				1
地域児童精神医療			1												1
地域児童青年精神医療								1							1
地域社会生活														1	1
地域住民											1				1
地域住民ボランティア														1	1
地域精神医療			1	1		1			2	7	3			2	17
地域精神保健				1				2	1						4
地域精神保健活動									1						1
地域の活動								2							2
地域の差異				1											1
地域連携事業										1					1
老人地域医療			1												1
合計	4	6	5	5	3	2	4	11	9	14	25	14	8		110

### 13. 事件、災害、マスメディアに関連した名詞句

「震災」・「災害」の文字を含む名詞句は37種類で、全体では67回(1.17%)である。そのうち65回は1995年、1996年に集中している。これらの名詞句の多くは災害精神医療や阪神淡路大震災に関したものである。また、「地下鉄サリン事件」という名詞句が1997年に1回、「事件」という名詞句が1996年に1回、「報道機関」という名詞句が1998年に17回出現している。

## IV 考 察

文献数の増加とともに分解される名詞句の種類、名詞句の総数の増加も伴うことから、名詞句の内容の分析が有用であると考え。多用される名詞句をみることにより、精神医療の過去13年の全体像が浮かぶ。精神医療の文献数は増加傾向にあり、1995年より著しく増加しており、社会的認知あるいは社会的要請が高まりつつあると考える。そして、「病院」・「精神科病院」という名詞句の多さから病院の果たしてきた役割の大きさが予想される。その対象には「精神障害者」・「患者」が捉えられ、対象者を取り巻く法律の下、福祉に至る環境の再考がなされてきたと考える。これらのことは、過去13年以前の近代の精神医療を踏まえると比較が容易である。わが国の精神障害者の生活環境は歴史研究などによると、国内の一部においては明治以前宗教的背景をもつ精神疾患患者の収容施設があり、精神疾患を疾患と捉えるなど社会の許容度も高かったことが推測されている<sup>6)7)</sup>。しかし、近代明治国家は治安対策の下に、精神障害者を収容・隔離する方向に精神障害者施策を進めた。また、当時の治療は持続浴療法や鎮静剤の使用が主で、劇的な精神医学の進歩は第2次大戦を待たなければならなかった。

精神障害者の収容施設においては、患者を確実に監禁しておくという任務のもとで食事の世話・掃除・服薬管理が主な看護業務であった。精神医療の閉鎖性・後進性のなかで精神科看護は停滞していたと考えられている<sup>8)9)10)</sup>。精神医療・精神看護は薬物療法が汎用される第2次大戦以降に発展していく。1900年の精神病者監護法によって延々と50年間営まれてきた精神障害者の隔離・収容は、1950年の精神衛生法の制定によって姿を消し、「監護」から「看護」の時代に移行した。精神障害者の治療は薬物療法・精神療法・作業療法・行動療法を含む総合的なプログラムで行われるようになった。1984年宇都宮病院事件が発覚し、患者の人権

擁護と社会復帰促進を目的に、精神衛生法を大幅に改正した精神保健法が1988年から実地されることになった。ノーマライゼーションの理念の下、行政における精神保健対策は入院中心の体制から地域におけるケアを中心とする体制へ重点を移し、精神障害者の社会復帰が推進された。また、精神保健法に先立って1993年に心身障害者対策基本法が障害者基本法へ改正され、精神障害者が福祉法対象者として規定された。また、政府は、1993年「障害者対策に関する新長期計画」、1995年「障害者プラン～ノーマライゼーション7か年戦略」を策定した。このような精神医療の経緯から、「精神保健法」・「精神保健福祉法」といった「法」の文字を含んだ名詞句が多くなることは至極当然の結果である。これらの名詞句の各年度毎の推移を追ってみると、1987年の精神保健法施行年では出現回数39回、精神保健福祉法改正年の前年である1998年では26回、改正年の1999年では12回と高値を示している。精神保健法から精神保健福祉法へと1995年に法律名が変更されているが、1994年2回、1995年6回であり、精神衛生法から精神保健法への改正年、あるいは精神保健法の改正年の出現回数と比較して少ない。岡田<sup>11)</sup>は「今回の改正を待つまでもなくすでに精神保健法(1987年)はその目的(同法第1条)に「社会復帰」を加え、「精神障害者の福祉の増進」を謳っている」と述べているが、精神保健法から公費負担医療の保険優先を主な内容とした精神保健福祉法への改正については注目されなかったことが予想される。

精神障害者の治療環境・生活環境についてみると、戦後の精神病院の病床数は増加し、1990年頃より横ばいをたどり、1998年は35万9千床となっている。精神病院の1日平均在院患者数をみると、1990年は約25万9千人、1998年は約24万7千人と著しい変化はみられない。平均在院日数は1984年の538.9日を最高に年々下降し、1998年には406.4日であるが、5年以上の入院患者が46.5%(1993年)と二極化にあるのが現実で、依然病院は短期入院を軸に機能していないことがわかる。

「病院」の文字を含む名詞句は全体の出現回数257回(4.51%)で全年度にみられるが、1997年以降は出現回数40回を超えている。これらの出現頻度の高さは、精神障害者の生活環境の現状と、精神医療の一端を担う過大な比重を果たしていることをあらわしていると考えられる。「社会」・「地域」・「コミュニティ」



に関連した名詞句が増加傾向にはあるが、「病院」を含んだ名詞句と比較すると約1/3の出現回数となる。従来の予防・治療を行う従来の精神病院・総合病院精神科の役割は重要であるが、社会復帰、社会参加の意図からも、社会の要請や推移をとらえた精神医療システムの一部として機能することが求められる。

今後の施設・機関・職種・サービスの提供体制の拡充と整備において、各資源の専門性と連携は必須であり、医療職種では精神科医・保健婦・看護婦(士)・介護福祉士・ソーシャルワーカー・作業療法士・臨床心理士の活動が期待される。「リエゾン」・「連携」・「コンサルテーション」・「コメディカル」・「リハビリテーション」を含んだ名詞句の出現回数の増加がこのことを示していると考えられる。看護における精神領域への関心も年々高まり、研究数は急激に増加している。しかし、これらの研究の大半は看護教育および看護管理に関する研究や症例研究であり、地域における社会復帰・社会参加を論じたものは極めて少ない。これは看護婦(士)の従事している施設が病院中心にあったためと思われる。神郡<sup>12)</sup>は「すでに外国では、地域精神保健看護や心理社会的看護、リエゾン精神看護などの領域が確立されていて、その活動分野も精神科施設、地域精神保健センター、総合病院の精神科病棟、私的診療所などの伝統的施設から在宅サービス、一時的な入院治療施設、デイケア・センター、養護あるいは集団住居施設、ホスピス、プライマリーケアクリニック、学校、刑務所、管理ケア施設、健康維持組織へと拡大されつつある。この傾向はやがてわが国にみられるようになるであろう」と述べているように、看護の地域・社会復帰に果たす役割がいつそう拡大していくと考える。

次に、「慢性」の文字を含んだ名詞句と比較して、「急性」・「救急」の文字を含んだ名詞句は全体で20倍以上多く、また、「病院」に関連した名詞句についても「急性」・「救急」の文字を含んだ名詞句が、「慢性」の文字を含んだ名詞句と比較して多い。予測される精神病院の利用者の増加、外来患者の増加、入院期間の短縮、精神医療の対象の複雑化・広範化により、「急性」精神医療は重要性を増しているものと推測する。

ところで、これからの保健・医療・福祉を講じるとき、老人福祉・介護問題は切り離して考えることはできない。1980年以降の老人福祉は、1982年に老人保健法が制定、1986年に老人保健施設の創設、1989年には高齢者保健福祉推進10カ年戦略(ゴールドプラン)が策

定、1991年老人訪問看護制度が創設、1994年には新ゴールドプラン、1999年にはゴールドプラン21の策定による高齢者介護サービス基盤の整備と進めることができる。1997年には、寝たきりや痴呆などの要介護者の増加に対応して要介護者及びその家族を社会的に支援するシステムとして、介護保険法が成立し、2000年度から施行されている。今後の高齢・少子化の社会と老人保健・医療・福祉における新たな時代の潮流において、「介護」と精神医療との関係は益々高まるものと考えられる。

以上、列記してきた名詞句の他に「震災」・「災害」・「報道」という名詞句も現れている。「震災」・「災害」の文字を含む名詞句は37種類、全体で67回(1.17%)出現している。そのうち65回は1995年、1996年に集中しており、災害精神医療や阪神淡路大震災に関する名詞句が大多数である。また、「地下鉄サリン事件」が1997年に1回、「事件」が1996年に1回、「報道機関」が1998年に17回出現するなど、事件・事故および報道など世相をとらえたものも名詞句の中に存在している。

大きな精神保健・福祉として大きな流れは行政施策の追随する形で「精神医療」の表題に表れる。一方、「報道」・「震災」など、マス・メディアあるいは天災・事故・社会現象が取り扱われていることから、精神医療が世相を反映しているといえる。今後、いつそう精神医療が住民の生活に浸透し、拡大していくことが予想される。

## V 結 論

医学中央雑誌CD-ROM(1987年~2000年)版からキーワード「精神医療」によるコンピュータ検索を行い、内容分析を行った結果、次のことが明らかになった。

1. 保健福祉施策を背景においた精神医療の分析を示す「精神医療」・「精神科医療」・「福祉」・「現状」・「問題点」・「課題」・「動向」・「立場」・「役割」・「精神病院」・「精神科病院」・「法」の文字を含む名詞句が多かった。
2. 「地域」の文字を含む名詞句などの精神障害者の社会復帰に関係した名詞句は増加傾向にあった。
3. 「震災」・「報道」など、マスメディアあるいは天災・事故・社会現象を取り扱っている名詞句がみられた。
4. 本研究で行った、内容分析による語彙レベルによって日本語の文章を分別、分析することは精神医療の動向を評価する際に大変有効であることが示唆された。

以上のことを総括すると、「精神医療」における表題は精神保健・福祉に関して行政施策に追随する形で表される場合が多かった。また、社会事件や社会現象を取り扱う表題もあり、精神医療が世相を反映していることがわかった。さらに地域における精神医療の役割拡大は社会的な要請であり、具現化するための情勢の分析が今後益々必要である。

## 参考文献

- 1) Meyersteineg and Sudhoff : Medizin Illustrierte Geschichte der Medizin(5), 43-338, 小川鼎三他, 図説医学史, 朝倉書店, 1996.
- 2) Edward Shorter : A HISTORY OF PSYCHIATRY 1997, 木村定, 精神医学の歴史, 15-387, 青土社, 1999.
- 3) 金子順二 : 日本精神医学年表, 牧野出版, 7-452, 1982.
- 4) Kraus Krippendorff CONTENT ANALYSIS 1980, 三上利治他, メッセージ分析の技法, 21, 頸草書房, 1992.
- 5) Bernard Berelson : CONTENT ANALYSIS, 稲葉三千男他, 内容分析, 5, みすず書房, 1957.
- 6) 跡部信(大阪城天守閣), 岩崎奈緒子, 吉岡真二 : 近世京都岩倉村における「家庭看護」(上), 精神医学, 37(11), 1221-1228, 1995.
- 7) 跡部信(大阪城天守閣), 岩崎奈緒子, 吉岡真二 : 近世京都岩倉村における「家庭看護」(下), 精神医学, 37(11), 1221-1228, 1995.
- 8) 遠矢福子, 細谷純子, 日本看護史における「新撰看護学-附精神病看護学」の役割, 福井県立大学看護短期大学部論集, 2, 19-27, 1995.
- 9) 広瀬楽 : 精神科看護の確立 歴史的考察, 東海大学短期大学紀要, 22, 147-154, 1989.
- 10) 岡田靖雄(精神科医療史研究会) : 精神科看護史の諸問題, 日本医史学雑誌, 37(3), 321-347, 1991.
- 11) 秋元波留夫 : 精神障害者施策の最近の動向, リハビリテーション研究, 86, 27-32, 1996.
- 12) 神郡博 : 精神看護学の視点, 富山医科薬科大学医学会誌, 12(1), 11, 1999.

## The Recent Trend of Psychiatry in Japan

— From the Literature for the Past Thirteen Years —

Manabu YAMAUCHI\* Eiichi UENO\*

### Summary

This research was examined on the recent trend of psychiatry in Japan which was searched literature relevant to keyword "psychiatry" in Japana Centra Revuo Medicina CD-ROM(1987-2000 year) edition by a content analysis. The analysis of title of each literature was carried out by breaking down Japanese sentences by vocabulary level, and then the noun was selected.

As a result, "law", "mental hygiene act", and "mental health act" were extracted from the title of each literature. It was found that this result was related to the revision of mental health act which was reformed from mental hygiene act in 1987. It was also found that words which indicate the reflection of social state such as "liaison psychiatry", "community health", "mass media" and "Hanshin-Awaji great earthquake disaster" were extracted from the title of earth literature. This result shows the psychiatry was re-examined in detail keeping in contact with social welfare. These results suggested that evaluation of psychiatric trend using a method to break down and analyze Japanese sentences by vocabulary level by this analytic method can be used very successfully.

key words psychiatry, content analysis, Mental Health Act, social state

\* Asahikawa Medical College Community Health Nursing